



第13回 憲法セミナー

映画「ひろしま」上映会のご案内

— 1945年8月6日、原子雲の下の真実 —

どのような映画なの？

原爆体験者の手記「原爆の子」をもとに関川秀雄氏が監督した作品。原爆投下から8年後の広島で製作され、約8万8千人の市民がエキストラとして撮影に参加した。

原爆症に苦しむ高校生みち子の姿を通して、原爆の恐怖、広島の惨状、市民の苦しみが描かれている。

日時 2019年 **11月4日** 曜日(祝)
開演 午後**3時** (受付:午後2時30分~)
場所 かがしま県民交流センター 中ホール
鹿児島市山下町14-50 TEL 099-221-6600
参加費 **500円** (※定員になり次第、締切)

定員になり次第、締め切らせていただきます。参加ご希望の方は
川内博史事務所 099-206-2422まで必ずご連絡ください。

皆様、いつもお世話になりありがとうございます。

今回の憲法セミナーは、幻の映画と言われていた「ひろしま」の上映会を企画いたしました。月丘夢路、岡田英次、山田五十鈴という往年の名優を配し、実際に原爆被害にあった8万8千人の広島市民がエキストラとして参加し、製作当時、大変話題になった映画です。

しかし、その内容が衝撃的であった為に、当時、「忖度」がなかったところに、配給元が忖度したのか、お蔵入りになってしまい「幻の映画」と呼ばれていました。しかし、この映画の製作に携わった人々の執念が実り、2017年にフィルムのデジタル化が成功し、現在、全国で有志による上映会が開催されています。

安倍内閣が、憲法改正を声高に発言する今日的状況の中で、「原爆投下直後の広島で何が起きていたのか」を、私達が映画「ひろしま」を通じて振り返り追体験することは、日本国憲法を語る上で、とても大切なことと思ひ、今回の企画になりました。どなたでも、ご覧いただけますので、是非誘い合わせて、御来場下さい。お待ちしております。

衆議院議員 川内博史

